

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第232号 2012年4月4日

OCHADAI GAZETTE April, 2012



## 本質を問う学の世界へ

### CONTENTS

#### TOPICS

- |                                      |                                       |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 学長からのメッセージ…………… 1-2<br>新入生の皆様へ       | キャンパス点描…………… 11-12                    |
| 平成23年度卒業式 …… 3-4<br>学長告辞             | ● A-WiL国際シンポジウムを開催しました                |
| 学生のアクティビティ…………… 5-6                  | ● 福井県と企業の女性リーダー育成相互協定を締結しました          |
| 教員紹介…………… 7                          | ● ニュートンのリンゴの木記念植樹セレモニーを挙行了しました        |
| ● 市 育代先生<br>(大学院人間文化創成科学研究科自然・応用科学系) | ● お茶の水女子大学のホームページがリニューアルオープンしました      |
| 卒業生紹介 …… 8                           | メディア報道記録/研究表彰等受賞者一覧/… 13-14<br>主要行事予定 |
| ● 溝口 紀子さん(理学部数学科卒)                   |                                       |
| 附属学校園からのお知らせ…………… 9-10               |                                       |



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# 学長からのメッセージ

## 新入生の皆様へ



ご入学を心からお祝い申し上げます。新入生の皆様をこの大学にお迎えできましたことを嬉しく思います。これから皆様と共に茶の水女子大学をいっそう豊かな学びの場にして行きたいと思っています。

昨年3月の東日本の大震災以来、多くの人々が科学の進歩や技術の発展の仕方について、そして日々の生活や社会のあり方について改めて問い始めました。私たちは、日常性が如何に脆く、同時にかけがえないものであるか、そして、生活の利便性が自然に対して如何に大きな負荷をかけているかを再認識させられています。

このようなとき大学が果たすべき役割はますます多岐にわたり、また大学で学ぶこともこれまで以上に多様になっています。知識を確実に習得することは学生として当然の課題ですが、その際に、学問の対象を根本から問う姿勢が不可欠です。

今年2月13日、東京大学からお茶の水女子大学に「ニュートンのリンゴの木」の苗木が贈られました。その記念植樹式典では、東京大学の濱田総長から、ニュートンにとってのリンゴのように身近な現象から新たな発見が生まれることを期待する、というご挨拶をいただきました。

この一本のリンゴの木は、学問全体を描く比喩としてデカルトが描いた「学問の木」を想起させます。リンゴという果実は実用的な学に相当し、木の幹は、物事の原理を扱う学問、つまり物理学や論理学、数学、あるいは基礎科学に当たります。そしてこれらの学問はいずれも何らかの形で、木の根、つまり本質を問うことに源をもっています。

そして大学では、これら全体的な学問体系を念頭においた教育が行われています。なぜなら自然も人も、それぞれが他との関わりの中で存在しているからであり、それらはまた時間的にも、過去、現在、未来という連関の中にあるからです。

今、新たに学の世界へと歩みを進められた新入生の皆様には、それぞれに問題意識をもち、将来の夢を追いながら、学ぶことの深さと楽しさを味わっていただきたいと思います。

お茶の水女子大学の学生には、ものごとを根本から問い、未来を見定めて的確に判断する力を身につけてほしいと考え、そのためのカリキュラムを準備しています。それらをどのように活用し自らの将来のために役立てることができるかは、学生1人ひとりの学ぶ意欲と熱意に依存します。

学生の皆様が、個人として自立し、問題意識をもって学びの日々を過ごし、豊かな未来を切り開く力をこの大学で習得し、そして社会人として活躍なさることを心から期待しています。

2012年 春  
学長 羽入 佐和子

学長からのメッセージ  
新入生の皆様へ

# 平成 23 年度卒業式

## 学長告辞



ご卒業おめでとうございます。

この日まで学生を支えられたご家族、ご関係の皆様、心からお祝い申し上げます。

また今日は、本学の監事、経営協議会の方々、卒業生の会である桜蔭会の会長、理事の皆様にご臨席いただきましてありがとうございます。

昨年は、大震災の直後、余震が続く中、卒業生と学内の教職員だけで簡略化した卒業式を行いました。

東日本大震災から1年が過ぎ、このように皆様と卒業をお祝いすることができますことを嬉しく思い、またこのような機会がいかに得難く貴重であるかを実感しております。

1万5000人を超える犠牲者を出し、なお3000名以上の方々不明なままであり、復興の道筋が見えない状況にあることを思いますと、今このように学問の場に身を置いていることの意味を改めて考えさせられます。一日も早い復興を願い、そのために大学としてなしうることを積極的に行っていくことが国立大学の重要な使命の一つであると考えています。

震災直後、本学からは大学の備蓄品を被災地に送りましたが、その後、被災学生への支援を開始するとともに、「被災地支援プロジェクトチーム」を設置して、被災地の情報を収集しながら、主に教育支援を実施してきております。また、復興と防災のプロジェクト研究も学内で複数開始いたしました。こ

れら活動によって、被災地に以前より充実した教育環境が整うことを期待しつつ長期的視点に立って、引き続き支援に取り組んで参りたいと考えています。

こうした被災地支援に限らず、お茶の水女子大学は常に社会と共に在ることを重視してまいりました。

学問研究は普遍的な真理の探究が第一義ではありますが、学問に携わる者は、常に変化し続ける社会状況と社会的課題にも敏感でなければならないと考えます。

皆様が入学した平成20年度から開始した「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」の意図もそこにあります。それは、具体的な課題に対して、様々な専門的見地からアプローチする方法を学ぶことであり、それを通して問題解決の新たな方策を見出すことです。課題へのアプローチの仕方は、専門によって大きく異なりますし、深い専門性が問題を解決する有効な手段であることに気づくのが本学のリベラルアーツ教育の特色です。その上で皆様はそれぞれに確かな専門的知識を修得されました。

課題は常に新しい形で私たちの前に立ち現れます。そして私たちを取り巻く問題はますます複雑化しています。それに対しては、既存の学問分野を超えるような柔軟で多様なものの見方、考え方、対処の仕方が必要になっています。過去の解決手法がそのまま適応可能であることは極めて稀です。マニュアルはないのです。ですがそのときこそ、深く確かな専門的知識が有力になります。複雑な問題を解決するには、広い視点





をもって専門的な知識を縦横に駆使する力が必要なのであり、皆様はその力を十分に身につけているはずです。今お渡しした学位記は皆様のその力の証です。これからはその力を存分に発揮していただきたいと願っています。

複雑な課題が山積している事態に対して、持続可能で真に豊かな社会を実現するために、高等教育機関は何をなし、また大学で学んだ皆様には何が期待されているのか、私たちは様々に問いかけられています。

大学の役割は、事柄の本質を見定め、常に社会に新たな見方を提案し、新たな価値を示すことであると私は考えています。

「人間の未来は、自然の出来事のようにおのずから生じるものではない。今、そして、瞬間ごとに、人が為し、思惟し、期待することが、まさに人間の未来の起源となる。」(K.Jaspers, 『歴史の根源と目標』1949年)

移りゆく事象をそのまま受け入れるのではなく、持てる知と力を駆使して、新しい未来を創造すべく努める使命が私たちにはあります。それはお茶の水女子大学のリーダー教育の目標でもあります。

本学ではリーダーの育成に力を入れていますが、この大学が目指すリーダーは、単に組織の長を意味するだけでなく、多様なあり方や考え方を認め、社会基盤を構築する存在となることでもあります。それが社会を牽引する力になると考える

からです。そのために、知性を備え、他者を尊重し、しなやかな強さをもつことをリーダー教育の中心に据えました。

私が参加しているある審議会で委員の約3分の1がお茶大の出身者だということに気づいて驚いたことがあります。これはほんの一例にすぎませんが、創設以来137年の歴史を通して、私たちの大学は、新しい分野を開拓する人々が学び、そして、社会基盤を担う人々が学生時代を過ごした場なのです。

これからの社会人としての生活では、学校生活とは全く異なる多くの困難に突き当たり、迷うことも多くあることでしょう。ですが、そのような時には、この大学で学んだことを誇りに、自分を信じて自らの判断に自信を持って果敢と闘っていただきたいと思います。皆様にはそれだけの力が備わっているはず。そして多くの先輩達がそれを実証しています。自信をもって力強く歩みを進めてください。お茶の水女子大学はこれからも皆様を応援しています。

本日ご卒業の507名の皆様の将来が輝かしいものとなることを期待し、信じ、ご卒業を心からお祝いいたします。

本日はおめでとうございます。

平成 23 年度卒業式  
学長告辞

# 学生のアクティビティ

お茶の水女子大学では、本学学生向けの学内インターンシッププログラムを用意しています。今号では、広報チーム（事務組織）と附属図書館で実施したインターンシッププログラムに参加した学生の、体験記をご紹介します。

## お茶大初! 広報インターンシップ

### —1年生奮闘記—

私たちは2012年2月20～24日に広報インターンシップに参加し、広報業務を体験するとともに、大学見学・お茶大グッズ・学報「OCHADAI GAZETTE」の3つに分けて、大学の広報活動の課題を検討しました。広報という仕事自体の説明や課題についてのレクチャーを受けた後、私達が課題に取り組んで報告し、アドバイスを頂いてから実践、といったような形をとりました。

#### 大学見学

大学見学は、中高生やその保護者、中学校・高校の教員などを対象に行っています。私たちは、実際にその大学見学を体験し、キャンパスツアー時に参照する地図を配布すること、キャンパスツアーを学生で行うことを提案しました（地図に関しては、完成次第見学会で配布することが決まりました）。

#### お茶大グッズ

お茶大グッズは生協でのみ販売されているスタイリッシュな製品で、売上の一部を国際的NGO「Room to Read」に寄附し、途上国の女の子の長期教育支援にあてていますが、その活動が広く学内に認知されていませんでした。私たちは、その社会貢献活動をPRし、お茶大グッズの販売を促進するために、商品陳列棚に置くPOPを提案しました。

#### 学報「OCHADAI GAZETTE」

広報推進室が発行しているこの「OCHADAI GAZETTE」自体も特に学生の認知度が低いものの一つでした。私たちは、「OCHADAI GAZETTE」が学内でより目に留まるようにするため、効果的な置き場所を考えました（インターンシップ期間中に、学生センター棟や図書館など数か所に置くことができました）。



坪田学長特命補佐から広報の基礎知識のレクチャー

#### インターンシップを終えて

- このインターンシップを通じ、他のインターンシップ生と課題に対して議論をし、広報チームの方々にご指摘いただくことで、自らの改善点に気付くことが出来、キャリアを考える上でも大変役に立ちました。（御所名）
- インターンシップ生として大学内の様々な場所に行くことで、お茶大の新しい一面を知ることができました。今後も大学広報に貢献できることがあれば、積極的に活動していきたいと思います。（田代）
- 授業とは全く違う雰囲気緊張感を高め、「交渉戦略」に知恵を絞って討論し、提案を作り出すまでの工夫を実感した経験はきっと、これからのキャリアに役に立てると思います！（詹）

#### インターンシップ生全員の感想

広報という仕事は大学の外部の方と接する機会も多いため、大学の印象に大きく関わる重要な仕事です。そして、広報という仕事、つまり「アピールする」ということはいつ、どのような状況でも行っているのだと学びました。インターンシップは終わりましたが、自分達は常にお茶の水女子大学の広報であるということ意識して学生生活を送り、これからも広報チームと協力し合っ、学生と大学が一体となった広報活動を続けていきたいと思っています。

文責：御所名麻希子（文教育学部人文科学科1年）  
田代恵理子（文教育学部言語文化学科1年）  
詹思怡（文教育学部人間社会科学科1年）



成果発表会でのプレゼンテーション

## 附属図書館LiSA (Library Student Assistant)

附属図書館LiSA(Library Student Assistant)は、学生と図書館スタッフによる図書館活性化プロジェクトです。LiSAとなった学生は、書架の整理や本の装備、目録作業、蔵書点検等、様々な図書館業務に携わることができます。また、自主的に展示や他大学との交流会等の企画を立ち上げ、実施することもできます。

LiSAの活動を通して、利用しているだけでは見ることのできなかった附属図書館の側面を見ることが出来、図書や学問がより身近に感じられるようになりました。更にLiSAの何よりの魅力は、本との繋がりはもちろん、人との繋がりも広がることであると感じています。

同じLiSAの仲間や図書館職員の方々など、これまで関わりのなかった方たちと関わりを持つことができました。また、常に前進する図書館を作ろうと働いている皆様の姿からは、いつも大きな刺激を頂いています。自分もそんなお茶大図書館の一員としてより良い図書館作りに貢献できるよう、これからも努力していきたいと思えます。

文責：秦野寛子(文教育学部言語文化学科日本語・日本文学コース3年)



LiSAには1年生後期から参加しています。

配架前の本に一足早く触れられる興奮、あまり手に取ることのなかった分野の本との出会い。講習会を通じたスキルアップや、データ入力によって利用者の利便性が上がることを実感できた時の嬉しさ。他学科・他学年のメンバーとの交流、自主的に企画したイベント等の実施。自分が装備した本を手にとってもらった時の喜び…。これらは皆、LiSAだからこそ経験できたことだと思います。

またLiSAの業務は「社会に出るとはどういうことか」を考えるきっかけにもなりました。アルバイト等をしたことがなかった私にとって、LiSAは初めての「仕事」でした。将来社会に出て働くときに役立てることができるような心構えを、少しずつですが身につけることができたと思います。

今後は「利用者」の立場と「LiSA」の立場を上手に融合し、附属図書館がより一層身近で使いやすくなるように貢献していければと思います。

文責：大島美幸(文教育学部言語文化学科日本語・日本文学コース2年)

# 教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科自然・応用科学系講師の市育代先生をご紹介します。市先生は、大学院ではライフサイエンス専攻食品栄養科学コース、また学部では生活科学部食物栄養学科ご所属です。



Ichi Ikuyo  
市 育代

## 失敗を恐れずに チャレンジしてほしい

### Q 先生のご専門は何ですか？

大学では管理栄養士養成課程である食物栄養学科で臨床栄養という分野を担当しています。臨床栄養は医学的な知識に基づいて、病気の予防や治療を栄養学的に行うことを学ぶ学問になります。私たちは食べ物を食べることで、栄養素を体内に取り込み、これを利用して身体の構成成分を維持しています。しかし、これらの機能が正常に動かなくなり栄養素の利用が低下したりすると、病気が発症しやすくなり、病気もより悪化した状況になります。

臨床現場の管理栄養士は患者の栄養状態の変化を的確に判定し、病態に応じた栄養補給を行って、よりよい栄養状態を維持することが必要になります。臨床の現場でも、治療における食事療法の重要性が明らかになっています。私は食物栄養学科で、疾病に応じた栄養管理の方法について講義をしています。

### Q 先生の研究室ではどういうことをテーマとされているのですか？

私は学生の頃から脂質栄養に関する研究を行ってきました。生活習慣が原因で起こる糖尿病や動脈硬化などの発症には、摂取する脂質や体内での脂質代謝の異常が深く関わっています。最近の脂質の栄養問題については“量”から“質”へと移行してきています。私たちが普段摂取している脂質(油)の中で、脂肪酸は大きなエネルギー源です。脂肪酸については、牛や豚などの動物性食品に多い飽和脂肪酸の過剰摂取が問題と

なっています。しかし、ヒトには摂取しなければいけない脂肪酸もあります。哺乳動物ではこのような必須の脂肪酸が欠乏すると、成長障害や魚鱗癬と言って皮膚が魚の鱗のように固くなったり、感染症にかかりやすいといった症状がみ

られたりします。我々の体内ではこのような状況になると、普段は存在しない脂肪酸が代わりに作られます。私はそのような必須の脂肪酸が欠乏している時に体内で出現してくる脂肪酸がどのようにしてできるのか、またその生理的意義について、主に培養細胞を用いて研究しています。

食物栄養学科は管理栄養士養成課程であり、私自身も管理栄養士ですので、このような栄養欠乏状態が疾病の発症や進展にどのような影響をもたらすかについても、今後研究していきたいと思っています。

私は今年度(平成23年度)の4月からお茶大に赴任してきましたが、今まで質量分析計を用いて、色々な脂質の微量分析を行ってきていました。臨床の分野において、病気の原因物質や指標を見つけることは非常に重要なことです。本学には様々な分析装置が揃っているので、臨床的な研究のためにも、実際の人の血液を用いて、新たな臨床の指標となる物質を探すことができたらと思っています。

### Q ご出身はどこですか？ 本学に赴任される前は？

出身は鹿児島です。お茶の水女子大学に赴任する前は奈良女子大学、鳥取大学、東京大学で助教をしていました。留学をして海外を経験してみたいとも思っていたのですが、大学のポストを探すのは厳しい状況になってきているので、博士修了後、すぐにポストにつくことができたのは本当にラッキーだったと思って

います。このようにいくつかの大学に赴任してきたことで、色々な大学の研究・教育のシステムを経験でき、視野も広がったと思いますし、今後にも役立つと思っています。

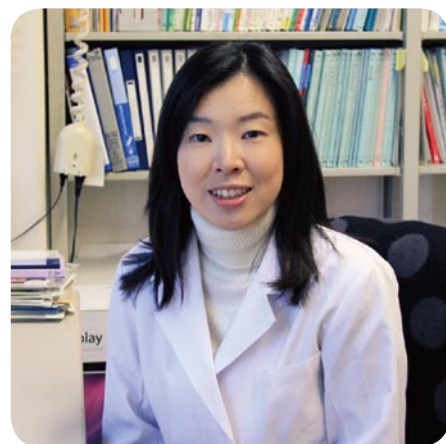
お茶大も大変伝統のある大学で、教育・研究の面で素晴らしい環境にあると思います。赴任して1年になりますが、自分のモチベーションも上げて続けていける場所だと感じています。

### Q お茶大生の印象は？ お茶大の学生にメッセージを。

私もいくつかの大学に赴任して、学生の雰囲気は大学でかなり違うと思いました。お茶大の学生は真面目で、根気よく頑張る学生が多いと思います。また理解も早いことから、課題等に対する対応も早く、優秀だと実感しています。

ただ、少し積極性が欲しいと思うことがあります。視野を広く持つために、多くのことを勉強して欲しいと思いますし、色々なことを経験して欲しいです。失敗することもあると思いますが、失敗で思わぬ結果が生まれることもあります。結果のみを求めると、やる気も失せていくことがあります。結果が全てではなく、その過程も大事だと思いますので、失敗を恐れず、色々なことにチャレンジして、頑張ってください。

文責：赤松利恵  
(大学院人間文化創成科学研究科  
自然応用科学系准教授)





# 卒業生紹介

## 女性科学者が輝く時代へ — 猿橋賞を受けて —

### Mizoguchi Noriko 溝口 紀子

溝口紀子さん プロフィール  
東京学芸大学教育学部自然科学系准教授

1985年お茶の水女子大学理学部数学科卒業後、理学研究科に進学し、理学修士を取得。その後、東京工業大学大学院に進み、1900年理学博士。日本学術振興会特別研究員を経て、1993年東京学芸大学講師、1995年同助教授、2007年から現職。

自然科学分野で優れた業績を挙げた女性研究者に光を当て、その活動を奨励する「猿橋賞」。昨年（第31回）、本学理学部卒の溝口紀子さん（東京学芸大学准教授）が数学で4人目となる受賞の栄誉に輝いた。受賞理由は、微分方程式の解が急激に無限大になる「爆発」と呼ばれる現象後、状態が変化する「不完全爆発」を解明した功績による。お茶大理学部からは過去4名が受賞している。

### ケセラセラな学生時代

「稀に見る数学的センスと強靱な計算力の持ち主」と研究仲間から畏怖される溝口さんだが、お会いしてみると、率直で気さくな数学者だ。「暗記モノや実験が嫌い」で、残ったのが数学だった。「数学は論理的に証明されて正しいか正しくないか、きっぱりしているところが好き」という。福岡県糸島市からお茶大理学部へ進学。慣れない東京の寮生活でホームシックにかかっているのではないかという家族の心配をよそに、「修学旅行のように楽しい日々」を過ごす。そのまま大学院に進んだのも、就職しなくなかったからで、「特に研究者になりたい訳ではなかった」という。若者特有の漠とした不安はあるものの、親の仕送りを受けながら好きな研究を続け、余暇はスキーやテニスに興じるという「モラトリアム」時代を過ごしながら、「いざとなればお嫁にいけばよい」と思っていた。博士号を東工大で取得後、2年のポスドク期間を経て東京学芸大に職を得た。そんな溝口さんに研究人生最大の転機が訪れる。

### 偶然をチャンスに変える

科学者は時として全く偶然に、目に見えない力で引き寄せられるようにして、新しい研究テ

マに遭遇することがあるという。溝口さんの場合は、研究会から帰国する機中でばったり会った顔見知りの先生が、「暇つぶしに」説明してくれた数学の問題がきっかけだった。自分の研究とは違う分野だったが興味を抱き、二人の共同研究が始まる。4年後、今度は単独で、関連領域で殆ど手付かずだったテーマに踏み込み、新しい手法を使って初の証明に成功。その成果が今回の受賞につながった。研究を始めた当初は文献も殆どなく、「ゼロからのスタートでアイデアだけが勝負」だったと振り返る。しかし、ここから溝口さんの真骨頂が発揮される。ハンディを逆に、「ブルドーザーのようなパワーと集中力（研究仲間評）」をもって研究を続ける。幸い、数学は一人でも出来る学問で、しかも競争相手もいなかった。「理系が一番でも二番でもダメ。誰も考え付かないことを思いつく、常に新しいものにトライする」姿勢が大事だと語る。そうして得た溝口さんの研究業績は、その独創性で海外の学会でも高く評価されている。

### ハンディと好奇心は研究生活のバネ

溝口さんの数学者としてのスタートは遅い。新しい研究テーマに出会った時は35歳を超えていた。研究環境などハンディも山ほどあった。「ハンディのない人生なんてないし、スタートが遅くても、いつでも取り返しはつく。大事なのは純粋な好奇心を持つこと。研究を一生続ける力になる」とは、後輩へのメッセージでもある。

「アイデアが閃いた瞬間が喜びの極みで、後

に続く長い研究は殆どが苦しい」一方で、数学の持つ完璧で矛盾のない「美しさ」に魅せられてきた。自らも絵筆をとる溝口さんは、「芸術と同じような普遍的な価値があるものを、数学で作りたい」と述べている。

教育者としても厳しいサービス精神の持ち主だ。学生に興味を持たせるためにドンドン当てる。考えた結果であれば間違ってもよいが、安易な「分りません」は許さない。その代り、恥ずかしい質問もない。丁寧に答える姿勢に慕う学生も多い。ゼミの卒業生に、サッカー日本代表に選ばれた岩政大樹選手がいる。嬉しそうに、そう教えてくれた溝口さんに、熱烈なサッカーファンの顔が見えた。

文責：坪田秀子（学長特命補佐）

### わたしのオフタイム

幼い頃、母親が毎月のように展覧会に連れて行ってくれた影響で、絵に親しむように。外国に行くと美術館巡りをするのが無上の楽しみ。好きな作家はモジリアニ。リタイアしたら油絵を描いて過ごすのが夢だ。息抜きは読書は軽いミステリー小説で。

# 附属学校園からのお知らせ

## 附属高等学校便り

### 創立130周年

附属高校は今年創立130周年を迎え、11月23日には記念式典・祝賀会などの記念行事を予定しています。その報告は次の機会に送ることにして、今回は、服装と建物を中心に附属高校130年の歴史を振り返ってみることにします。

本校は1882(明治15)年7月に東京女子師範学校附属高等女学校として設置されていますが、写真1は1885(明治18)年7月の最初の卒業式のもので、6名の卒業生は皆日本髪に着物です。ちなみに卒業写真はこの第1回から現在まで、ほとんど欠けることなく残っています。その後通学服は1902(明治35)年頃から袴姿になっています。✔



### 「生徒服装の変遷」



写真 2: 大正元年頃の通学服  
(袴に校章バックル付きベルト)



写真 3: 昭和 7 年に  
制定された制服



写真 4: 現在の制服

がれています。さらに1969(昭和44)年には、生徒と教員の話し合いの元に、写真4の制服が制定され、現在に至っています。世の中の流行にあわせてスカートの丈が変化していますが、ベーシックで自分なりのおしゃれも取り入れられる現在の制服を生徒達は気に入っているようです。ちなみに写真2・3は日本画家坂内青嵐が本校に通う娘をモデルに描いたといわれる「生徒服装の変遷」の掛軸8幅の一部です。これらは大学図書館のホームページのデジタルアーカイブズで公開されています。

さらに1906(明治39)年からは写真2のように、菊の花に蘭の花と葉をあしらった校章をかたどったバックル付きのベルトを袴の上に締めるようになりました。校章は「秀蘭芳菊君子を思う」という古語に基づき、その高潔な美しさが立派な人に似ていることを表しています。現在の蘭・菊・梅のクラスの名称の元にもなっています。

1930(昭和5)年には通学用の標準服5種を制定し、1932(昭和7)年4月よりそのうちに2種を制服として定めています。そのうちの1種が写真3で、これは現在も附属中学校の女子生徒の制服として受け継

がれています。校舎の場所は創立から数年は何力所かを転々とし、1890(明治23)年、現在の東京医科歯科大学の地にあつたお茶の水の女子高等師範学校内に移転しました。1923(大正12)年関東大震災で被災し、火災で校舎は焼失しました。しばらくはお茶の水の仮校舎で過ごしています。東京女子高等師範学校は1929(昭和4)年から8年の歳月をかけて、現在の大塚の校地に新校舎を建設して移転しました。附属高等女学校は1935(昭和10)年に新校舎が竣工し移転しています。写真5は1935(昭和10)年4月竣工当時の校舎の外観です。落成記念絵葉書の1枚に収められています。写真6・7は1937(昭和12)年頃の校舎内、北階段と生物室です。1948(昭和23)年には学



左 - 写真 5: 1935(昭和 10) 年 竣工当時の附属高等女学校校舎 (落成記念絵葉書より)  
右 - 写真 8: 現在の附属高校校舎



左 - 写真 6: 1937(昭和 12) 年頃の校舎内、北階段  
右 - 写真 9: 現在の附属高校校舎内、北階段



写真 1: 1885年7月、第1回卒業式

制改革で附属高等女学校から附属高等学校に校名は変わりましたが、現在まで77年間この校舎を大切に使ってきました。写真8～10は写真5～7と同じ場所の今の様子です。金木犀と銀杏並木が大きくなり、すっかり校舎が隠れています。

2007年には全教室へのエアコン設置、ホームルーム教室へのプロジェクター・スクリーンの設置が完了、大部分が教育後援会のご援助によるものです。2008年には耐震補強工事も行われ、昨年の大震災でもほとんど被害はありませんでしたが、やはり老朽化が進んでいます。どっしりとした骨組みや木質中心の内装は維持し、省エネ対応で新しい機能を盛り込んだ校舎への改修が早期に実現することを願っています。



上 - 写真 7 : 1937(昭和12)年頃の校舎内、生物室  
下 - 写真 10: 現在の附属高校校舎内、生物室

## 【いづみナーサリー】

## 1月

- 保育臨床実習
- 附属高校2年生「家庭総合」保育参観
- 園内研究会「食事指導について」
- 避難訓練

## 2月

- 附属高校2年生「家庭総合」保育参観
- 豆まき
- 保護者会
- 学生ボランティア「風船と静電気あそび」
- 避難訓練

## 3月

- ひなまつり  
Ochasによる、おやつ作り(雛人形ケーキ)
- 親子で遊ぼう会
- 避難訓練

## 【附属幼稚園】

## 1月

- 3学期始業式
- 鏡開き、お汁粉パーティー
- 教育実習事前指導
- つほみ会 (PTA) 主催後援会  
講師 辻井いつ子氏

- 誕生会
- クラス懇談会
- 親子体操の会  
講師 佐藤弘道氏

- 附属高校2年生「家庭総合」保育参観
- 入園候補者説明会
- 園外保育 (5歳)
- 附属小学校3年2組訪問
- やきいも

## 2月

- 親子で遊ぶ日 (3歳)
- 豆まき
- 公開保育
- 附属小学校3年2組訪問
- 防災訓練
- 誕生会
- 親子で遊ぶ日 (5歳)

## 3月

- 雛まつり
- PTA総会、全体保護者会
- お楽しみ会 (5歳)
- 誕生会
- 卒業式
- 終業式

## 【附属小学校】

## 1月

- 3学期始業式
- 委員会活動 (5・6年生)
- JICAアフガニスタン研修参観
- まきば会<父親の会>  
文京区合唱の集いに参加
- 通学班別会
- 避難訓練
- 茗鏡会ニューイヤーコンサート

## 2月

- 委員会活動  
(5・6年生、4年生見学参加)
- 避難訓練
- 公開研究会
- 縦割り班活動

## 3月

- 第2回学校評議員会
- 授業参観
- 保護者総会
- かがみ会総会
- 6年生雪の学校  
(妙高高原国民休暇村宿泊)
- 6年生を送る会
- 卒業式
- 修了式

## 【附属中学校】

## 1月

- 冬休み終了
- 生徒登校日
- 保護者参観日

## 2月

- 3年生自宅学習
- 学校評価委員会、学校評議員会
- 期末テスト

## 3月

- 2年生郊外園
- 歓送会
- 卒業式
- 終業式

## 【附属高校】

## 1月

- 3学期始業式
- 3年生自宅学習
- 家庭科特別授業
- 2年生学力テスト
- 2年生保護者会
- 1年生保護者会
- 3年生終講
- JICAアフガニスタン研修

## 2月

- 第2回学校評議員会

## 3月

- 国立大学附属高校関東地区副校長研究会
- 期末試験
- 1年生農場実習
- 餅つき大会・歓送会
- 卒業式
- 終業式

# キャンパス点描

## A-WiL国際シンポジウムを開催しました



午前の部「各国女性リーダー育成教育の取り組み」講演

2012年2月11日(土)にお茶の水女子大学主催のA-WiL国際シンポジウム(※)「未来を創造する大学」を開催しました。本シンポジウムは、2011年4月に日本初の「男女共同参画推進本部」を設置したお茶の水女子大学が、男女共同参画社会実現に向けて本格的に取り組む決意表明としてのシンポジウムです。当日は、定員120名を大幅に超える180名の参加がありました。

午前の部「各国女性リーダー育成教育の取り組み」では、海外の三女子大学(韓国 梨花女子大学、米国 マウントホリヨーク大学、イタリア コツレージョ・ヌオーボ)における女性リーダー育成教育についてお話し頂き、それぞれの国の文化や校風に基づいて構築された各大学の女性教育モデルが紹介されました。本学からは、「『みがかずば』の理念に基づく女性リーダーの育成」の紹介を行いました。参加者からは「日本の女子教育も世界の女子教育も同じ道筋をたどってきたと実感した」、「今少し停滞しているように感じていたのだが、未来に向けて希望をもった」などの感想を頂きました。

午後の部では、羽入佐和子学長が主催側から挨拶し、板東久美子氏(文部科学省高等教育局長)、岡島敦子氏(内閣府男女共同参画局長)よりご挨拶を頂戴しました。さらに学長講演に先立って、宇宙航空研究開発機構(JAXA)との文化・人文社会科学利用パイロットミッション「飛天」の舞踊作品の上演と、石黒節子名誉教授(お茶の水女子大学)による飛天プロジェクトの解説がな

れました。「飛天」について、観客から「素晴らしい」、「新鮮で味わい深い」等の声を頂きました。



羽入佐和子学長挨拶

「世界の女性学長、語る-人生・キャリア・哲学」では、コメンテータに奈良女子大学野口誠之学長を迎え、海外の三女子大学より女性学長、キム・ソンウク学長(韓国 梨花女子大学)、リン・バスクエラ学長(米国 マウントホリヨーク大学)、パオラ・ベルナルディ学長(イタリア コツレージョ・ヌオーボ)をお招きし、羽入佐和子学長とともに、学術の世界でトップに立つ女性学長として、幼少期や学生時代、現在に至るまでを写真を交えて、各人の人生観、社会へのメッセージ、未来のビジョンを語っていただきました。観客からも「普段聞くことのできない話を聞くことができよかった」、「国が違っても大切なこと(リーダーシップの要因)は共通点が多いのだと

感じた」、「ご自身の経験、考えから強い使命感を抱きリーダーになられたということに驚嘆した」などの感想を多数頂きました。



午後の部「世界の女性学長、語る-人生・キャリア・哲学」パネルディスカッション

参加者からは全体を通じて、「一人の人生にとって重要な人物に出会うことは大変重要である」、「質の高い内容で、わざわざ足を運んだ甲斐があった」、「高いレベルの女子教育(キャリア教育も含めて)が今こそ大切と感じた」などの意見を頂きました。

本シンポジウムの議論を通して、未来を志向し、未来から今を問い、そして今を創造するためのアイデアを数多く得て、シンポジウムは盛会裏に終了しました。

※A-WiLは、お茶の水女子大学の事業「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」(文部科学省特別経費 平成22年度~27年度)の略称で、その英語名「International Research Program for the Advancement of Women in Leadership」に基づいています。

## 福井県と企業の女性リーダー育成相互協定を締結しました ………

お茶の水女子大学は1月21日(土)、福井県と女性リーダー育成のための相互協定を締結しました。締結式は福井県生活学習館で行われ、羽入佐和子学長と西川一誠知事が協定書にサインしました。本学では地方自治体との女性リーダー育成のための協定は初めてのケースとなります。

福井県が平成24年度から実施する「未来さらりプログラム」策定のために、本学が実施している女性リーダー育成のノウハウを活用し、福井県内の企業の女性がキャリアアップを目指すためのプログラム策定を協力して行うこととなります。

この協定は、本学が国内外で活躍する女性リーダーの育成を自らの使命とし、リーダーシップ教育に取り組んできた実績が評価され、期待されたものです。

羽入学長は「小さな繋がりが、強い意志を持つことで、大きな成果になると思う」と協定締結の成果に期待を寄せました。

協定式後に、福井県内の企業、団体に活躍する女性でつくる「ふく



い女性ネット」主催の講演会(講師:森本千賀子さん、(株)リクルートエグゼクティブエージェント)に出席し、参加した福井県の女性に励ましのエールを送りました。

## ニュートンのリンゴの木記念植樹セレモニーを挙行了しました ………



2月13日(月)、お茶の水女子大学正門横のインフォメーション・プラザ前広場の整備に伴い、ニュートンのリンゴの木記念植樹セレモニーを挙行了しました。

物理学者ニュートン Sir Isaac Newton (1643-1727) が、リンゴの実が木から落ちるのを見て「万有引力の法則」を発見したという

逸話は有名です。ニュートンの生家にあつたその木は、接ぎ木によって各国の科学に関係ある施設に分譲され育てられています。

この度東京大学から本学に贈られたこのリンゴの木は、東京大学小石川植物園で育てられている木の枝を接ぎ木したものです。

記念セレモニーにおいて、濱田純一東京大学総長、寺島一郎東京大学小石川植物園園長、羽入佐和子学長により記念植樹が執り行われました。



## お茶の水女子大学のホームページがリニューアルオープンしました

お茶の水女子大学のホームページが1月17日(火)にリニューアルオープンしました。大学のニュースやイベント情報など、さまざまな大学情報を発信していきますので、ぜひご利用ください。

また、今回のホームページリニューアルとあわせて、大学公式 Facebook ページも1月17日(火)にオープンしました。今後、内容を充実させていく予定ですので、こちらもご利用ください。

お茶大ホームページ

<http://www.ocha.ac.jp/>

お茶大公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/ochadai>

※FacebookページはFacebookのアカウントをお持ちの方のみご覧いただくことができます。

キャンパス点描

# メディア報道記録

## メディア報道記録 2011年度(抜粋)

- **2011年4月15日** 毎日新聞(夕刊) キャンパス: 退任した教授3氏に聞く「物事の二面性」を追究 山本秀行名誉教授
- **2011年4月20日** 日本経済新聞、読売新聞、毎日新聞、日刊工業新聞 猿橋賞受賞 溝口紀子さん(卒業生)
- **2011年5月5日** 読売新聞 600校の実力: 共生の「強制」寮で成長 耳塚寛明理事・副学長
- **2011年5月8日** スポーツ報知新聞 女子大生監督が夢のキャンベ初出品!! 文教育学部人間社会科学科 田崎恵美さん
- **2011年5月10日** 朝日新聞 ことばの力 学びのススメ(語力検定): 文理融合で知識広げる 耳塚寛明理事・副学長 望月由起准教授
- **2011年5月10日** 朝日新聞 ニュースを読み解くウェブサイトを WEBRONZA から: シヤトル事故の教訓に学べ 宇宙飛行士 山崎直子さん(附属高校)
- **2011年5月17日** 日刊工業新聞 環状ホスファチン酸 大腸がん抑える効果: 信州大とお茶の水女子大 室伏さつき教授
- **2011年5月27日** 日本経済新聞 らいふプラス: 育て理科好き教員「先生の先生」各地で活躍 千葉和義インス&エデュケーションセンター長
- **2011年5月28日** 朝日新聞 ひと: 女性科学者に贈られる猿橋賞を受賞する 溝口紀子さん(卒業生)
- **2011年5月28日** 読売新聞 声援 復興めざして: 命の輝き 地球の希望 宇宙飛行士 山崎直子さん(附属高校)
- **2011年5月31日** 朝日新聞 大学コソコソ節電
- **2011年6月20日** 日経産業新聞 強い大学: 学部で広い視野育む 耳塚寛明理事・副学長
- **2011年6月22日** 読売新聞 平安大震災6: 噴火から復興まで300年 鷹野光行教授
- **2011年6月24日** 毎日新聞 大学図書館司書に聞きました: 大学生に今一押しの本は? 江川和子図書・情報チームリーダー
- **2011年7月12日** 読売新聞 声援 復興めざして: 東北人に「日本の品格」 藤原正彦名誉教授
- **2011年7月13日** 朝日新聞 奨学金「ご褒美型」続々: 成績上位に支給 入学前予約も
- **2011年7月13日** 日刊工業新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞 ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞受賞 大学院理学専攻 竹原由佳さん
- **2011年7月13日** 日刊工業新聞 小中高校生の理科自由研究: お茶の水女子大が「DB化」サイエンス&エデュケーションセンター
- **2011年7月17日** 日本経済新聞 健康: 今どき健康学 コーヒー飲む人、シミ少なくて 近藤和雄教授
- **2011年7月22日** 日刊工業新聞 日本分子生物学会「若手研究助成 富沢順一・恵子基金」助成に6人選出 佐野浩子特任助教
- **2011年8月9日** 読売新聞 赤ちゃんポスト: 着服金ギャンブルに 榎原洋一教授
- **2011年8月25日** 毎日新聞(夕刊) 私だけのふるさと: 川泳ぎとアイス 年1回うれしくて 楊逸さん(卒業生)
- **2011年8月30日** 日本経済新聞(夕刊)、読売新聞(夕刊)、東京新聞(夕刊) 山崎さん 飛行士を引退 宇宙飛行士 山崎直子さん(附属高校)
- **2011年8月31日** 産経新聞 赤ワインの健康パワー: 抗酸化作用のあるポリフェノールが豊富 近藤和雄教授
- **2011年9月1日** 東京新聞、産経新聞 引退の山崎さん: より多くの方が宇宙行く時代を 宇宙飛行士 山崎直子さん(附属高校)
- **2011年9月2日** 朝日新聞 大学サバイバル: 国立女子大の存在意義とは? 働く女性の先進モデル作ります 羽入佐和子学長
- **2011年9月7日** 毎日新聞(夕刊) 新幸福論: 生き方再発見「ああいいな」の感激、自分で見つけるもの 藤原正彦名誉教授
- **2011年9月11日** 毎日新聞 「子ども煩わしい」7割: 母親対象 大震災の影響調査 菅原ますみ教授
- **2011年9月15日** 日本経済新聞 交遊抄: 笑う哲学者 羽入佐和子学長
- **2011年9月27日** 読売新聞 生活いど: 法律を身近に 実践的授業 寺本誠附属中学校教諭
- **2011年9月29日** 朝日新聞 リケジョ 働く支援を: 意識調査 進路選択「満足」9割 大学院理学専攻 竹原由佳さん
- **2011年10月5日** 朝日新聞 関東大震災の記憶 資料展 歴史資料館
- **2011年10月5日** 日本経済新聞(夕刊) テビュー作を震災後の物語に: 漂う怖さ「日常」再考 川上弘美さん(卒業生)
- **2011年10月17日** 朝日新聞(夕刊) 就職の先輩: 健康守るアイデア磨く 体組成計の基礎研究 内山朋香さん(卒業生)
- **2011年11月8日** 朝日新聞(夕刊) 「獅子頭」刊行: 異文化との出会い重ねて小説に 楊逸さん(卒業生)
- **2011年11月8日** 毎日新聞(夕刊) 震災後、テビュー作を書き換え 怒りと疑問をこめて 川上弘美さん(卒業生)
- **2011年11月10日** 朝日新聞 @秋葉原 TFT42、飢餓撲滅へ一石二鳥の取り組み 藤橋ひとみさん(卒業生)
- **2011年11月11日** 日刊工業新聞 化学物質総合管理 企業の対応力評価 お茶の水女子大 人材育成も対象 増田優ライブワールド・ウォッチセンター長
- **2011年11月13日** 読売新聞日曜版 心の風景: 祖母を思う「オプスナ様」 藤原正彦名誉教授
- **2011年11月16日** 日本経済新聞(夕刊) 学生寮で育む国際性・協調性 耳塚寛明理事・副学長
- **2011年11月23日** 教育学術新聞 大学は往く 新しい学園像を求めて 羽入佐和子学長
- **2011年11月27日** 朝日新聞 十代、こんな本に出会った: 宇宙への扉 大きく開いた『COSMOS』 宇宙飛行士 山崎直子さん(附属高校)
- **2011年11月29日** 産経新聞 ロタワクチンの接種開始: 緑茶カテキンの効用続々 近藤和雄教授
- **2011年12月4日** 読売新聞 ジャワ原人、100万年前にアジアへ: 従来より60万年遅く 松浦秀治教授
- **2011年12月5日** 日刊工業新聞 冷やすと内部薬剤放出: 脂質分子でカプセル粒子 お茶の水女子大薬物送達に应用 今井正幸教授
- **2011年12月15日** 日刊工業新聞 レーザー: 生命の起源に迫る 今井正幸教授
- **2011年12月17日** 東京新聞(夕刊) 育て女性リーダー: 女子大組織まとめる授業 頼住光子教授
- **2011年12月17日** 日本経済新聞(夕刊) 日本の国柄の復興 藤原正彦さんに聞く: 経済偏重脱し真の教養を 藤原正彦名誉教授
- **2011年12月21日** 毎日新聞(夕刊) 女性文化賞に石川逸子さん 詩人 石川逸子さん(卒業生)
- **2012年1月6日** 読売新聞(夕刊) いやはや語辞典: 進化「退化」の意味もあるのに 川上弘美さん(卒業生)
- **2012年1月6日** 県民福井新聞 女性リーダー育成へ: お茶の水大と協定
- **2012年1月6日** 中日新聞 女性リーダー育成: 県とお茶の水女子大 研修内容作成で協定
- **2012年1月13日** 読売新聞 不正防止 悩む大学: あすからセンター試験「携帯」監督者の死角
- **2012年1月16日** 読売新聞 センター試験「社会」: 配布ミス 4565人影響 耳塚寛明理事・副学長
- **2012年1月19日** 産経新聞 動物の幸せ、命の重さ議論 殺処分現状: 中学生130人授業 附属中学校
- **2012年1月20日** 日刊工業新聞 放射線、正しく知って-東京港区が出前授業- 学際生命科学東京コンソーシアム
- **2012年1月21日** 産経新聞 秋入学 悩む各校: 家計負担の増大が心配 羽入佐和子学長
- **2012年1月22日** 福井新聞 県・お茶の水大 相互協定: 女性リーダー育成への抱負
- **2012年1月25日** 日本経済新聞(電子版) タニタだけじゃない 一般もOK! 究極の社食・学食 ヘルシーで「リーズナブル」 食育サークル「Ochas」
- **2012年1月27日** 日刊工業新聞 お茶の水女子大 会議運営やコーチング手法 福井県にノウハウ提供: 女性リーダー育成で協定
- **2012年1月31日** 朝日新聞 リレーおびにおん: 子連れでGO「抱っこで接客」できますよ モーハウス代表 光畑由佳さん(卒業生)
- **2012年2月2日** 日刊工業新聞 テクノ編集部: ヤモリの足の構造 奥村剛教授
- **2012年2月3日** 朝日新聞(夕刊) クモの糸 超高性能: 米・イチチーム解明 奥村剛教授
- **2012年2月7日** 朝日新聞 リレーおびにおん: 連れてGO ママ友? 私にはいません 楊逸さん(卒業生)
- **2012年2月18日** 日本経済新聞(夕刊) 築こう多文化共生社会 宮島喬さんに聞く: 違い認め対等な関係を 宮島喬名誉教授
- **2012年2月22日** 教育学術新聞 教育の場としての学生寮: 大学教育学会の研究委がテーマに 桂瑠以講師
- **2012年2月27日** 日本経済新聞(夕刊) らいふプラス: 「親子共学」今がチャンス 石井クンツ昌子教授
- **2012年3月3日** サンケイリビング新聞 社会を変え貢献できる女性リーダーを育成 羽入佐和子学長
- **2012年3月13日** 産経新聞 「栄養学専攻女子」企業注目コラボ続々 食育サークル「Ochas」
- **2012年3月16日** 毎日新聞、読売新聞 米芸術アカデミー名誉会員に近藤さん 近藤謙教授
- **2012年3月22日** 朝日新聞 探究人:「印象派物理学」直感を重視 奥村剛教授

# 研究表彰等受賞者一覧 2011年度(抜粋)

## (1) 教職員

- 平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)  
大学院人間文化創成科学研究科  
室伏きみ子教授
- 春の叙勲 瑞宝中綬章  
酒本雅之名誉教授  
清水碩名誉教授
- 春の叙勲 瑞宝小綬章  
中山淑廣元事務局長
- 2010年度日本ドイツ学会奨励賞  
中村綾乃日本学術振興会特別研究員(PD)
- 第20回日本健康教育学会学術大会第1回奨励賞  
大学院人間文化創成科学研究科  
赤松利恵准教授
- 日本調理科学会平成23年度大会学会賞  
大学院人間文化創成科学研究科  
香西みどり教授
- 第7回アスタキサンチン研究会奨励賞  
生活環境教育研究センター  
岸本良美研究機関研究員
- 日本動物学会第82回大会感謝状  
湾岸生物教育研究センター  
山口守技術専門職員
- 2011年度日本数学会賞秋季総合分科会建部賢弘賞特別賞  
大学院人間文化創成科学研究科  
栗田和正講師
- 第13回日本テレワーク学会発表大会優秀発表賞  
大学院人間文化創成科学研究科  
坂本有芳研究員
- 2011年度グッドデザイン賞(住宅部門)  
お茶大SCC(お茶の水女子大学 Student Community Commons)
- The 10th International Conference on Bioinformatics (InCoB 2011) Best Paper Award  
生命情報学教育研究センター  
岡村浩司特任講師

- 第6回「女性史学賞」  
磯山久美子非常勤講師
- 平成23年度文部科学大臣優秀教員表彰  
附属幼稚園 伊集院理子教諭
- 第4回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2012) 最優秀インタラクティブ賞  
大学院人間文化創成科学研究科  
渡辺知恵美講師
- 第25回石川謙賞  
河田敦子特任アソシエイトフェロー
- American Academy of Arts and Letters (アメリカ芸術・文学アカデミー) 外国人名誉会員  
大学院人間文化創成科学研究科  
近藤謙教授

## (2) 学生

- 情報処理学会第73回全国大会大会奨励賞  
大学院理学専攻 三木香央理さん  
情報処理学推奨卒業論文認定  
理学部情報科学科 笠江優美子さん  
理学部情報科学科 北島理沙さん  
理学部情報科学科 曾我紗知子さん  
情報処理学推奨修士論文認定  
大学院理学専攻 川上あゆみさん
- NICOGRAPH International 2011 Best Poster Award  
大学院理学専攻 林亜紀さん
- the Ninth International Conference on Pervasive Computing (Pervasive 2011) Best Poster Award  
大学院理学専攻 田島奈々美さん
- DICOMO2011 ヤングリサーチ賞  
大学院理学専攻 安藤玲未さん  
大学院理学専攻 岩木紗恵子さん  
大学院理学専攻 三木香央理さん
- 第6回2011年度ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞  
大学院理学専攻 竹原由佳さん

- 第24回全日本高校・大学ダンスフェスティバル特別賞  
文教育学部芸術・表現行動学科  
舞踊教育学コース
- 第26回全国書写書道展覧会文部科学大臣賞  
生活科学部人間・環境科学科  
樋田朋子さん  
書研大賞  
生活科学部人間・環境科学科  
関口冴子さん
- 第84回日本生化学会大会鈴木絃一メモリアル賞(優秀プレゼンテーション賞)  
大学院ライフサイエンス専攻  
下華奈子さん
- 12th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2011) Best Presentation Award  
大学院理学専攻 芹澤翠さん
- ACM International Conference on Interactive Tabletops and Surfaces (ITS 2011) The Best Poster Award  
理学部情報科学科 須賀千紘さん
- 第55回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(TEAC2011) ベストプレゼンテーション賞  
大学院ライフサイエンス専攻  
田中唯菜さん
- 第58回日本学校保健学会優秀発表賞  
大学院人間発達科学専攻  
壺井尚子さん他
- 第4回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2012) 優秀インタラクティブ賞  
大学院理学専攻 平井弘実さん
- 日経STOCKリーグ第12回レポートコンテスト最優秀賞、金融担当大臣賞  
附属高等学校  
太田原奈都乃さん、荒木帆帆さん、井上彩さん、末吉陽香さん、本橋美里さん
- アメリカ学会  
アメリカ大使館賞  
大学院ジェンダー学際研究専攻  
臺丸谷美幸さん

- 電子情報通信学会 Web インテリジェンスとインタラクション研究会学生奨励賞  
大学院理学専攻 石澤恵さん  
理学部情報科学科 重松遥さん
- 情報処理学会第74回全国大会学生奨励賞  
大学院理学専攻 安藤玲未さん  
大学院理学専攻 林亜紀さん  
大学院理学専攻 渡辺千穂さん  
大学院理学専攻 山下暁香さん  
理学部情報科学科 小林瑞季さん

## (3) 本学出身者

- 第31回猿橋賞  
大学院理学研究科修了 溝口紀子さん
- 第17回社会政策学会奨励賞  
大学院人間発達科学専攻修了  
菊池いづみさん
- 第1回福祉社会学会奨励賞  
大学院人間発達科学専攻修了  
菊池いづみさん
- ACM Symposium on Applied Computing Multimedia Visualization Track Best Paper  
大学院理学専攻修了 草間かおりさん
- 第4回ジェンダー法学会西尾学術奨励賞  
大学院人間発達科学専攻修了  
南貴子さん
- 在外韓国入学会第3回「優秀論文賞」  
大学院人間発達科学専攻修了  
柳蓮淑さん

# 主要行事予定 2012年度

- 4月4日 入学式
- 4月5日 新入生オリエンテーション(～10日)
- 4月9日 新入生セミナー(～10日)
- 4月11日 前学期授業開始
- 4月21日 大学院オープンキャンパス
- 4月30日 通常授業開講
- 5月16日 名誉教授懇談会
- 5月26日 ホームカミングデイ
- 5月31日 開学記念日
- 6月27日 理学部編入学試験(～28日)
- 7月5日 理学部編入学試験合格発表
- 7月14日 学部オープンキャンパス(～16日)
- 7月23日 夏期休業開始
- 8月13日 夏季一斉休業(～15日)
- 8月23日 博士前期課程8月入試(～24日)
- 8月31日 博士前期課程8月入試合格発表
- 9月6日 博士後期課程9月入試(～7日)
- 9月13日 夏期休業終了
- 9月14日 博士後期課程9月入試合格発表

- 9月24日 前学期末試験・補講日(～28日)
- 9月28日 9月卒業式
- 10月1日 10月入学式・後学期授業開始
- 10月3日 AO入試1次合格発表
- 10月6日 文教育学部・生活科学部編入学1次試験
- 10月17日 文教育学部・生活科学部編入学1次試験合格発表
- 10月19日 AO入試(～20日)
- 10月24日 AO入試合格発表
- 10月31日 文教育学部・生活科学部編入学2次試験
- 11月8日 文教育学部・生活科学部編入学2次試験合格発表
- 11月10日 徽音祭(～11日)
- 11月14日 推薦等入試1次合格発表
- 11月21日 奨学金授与式
- 11月22日 永年勤続表彰式
- 11月24日 推薦等入試(～25日)
- 11月29日 創立記念日
- 12月6日 推薦等入試合格発表

- 12月26日 冬期休業開始

## 2013年

- 1月4日 新年賀詞交歓会、冬期休業終了
- 1月19日 大学入試センター試験(～20日)
- 1月26日 大学入試センター試験(追試)(～27日)
- 1月31日 博士前期課程2月入試(～2月1日)
- 2月4日 後学期末試験・補講日(～8日)
- 2月7日 博士前期課程2月入試合格発表
- 2月25日 学部入試(前期)(～26日)
- 3月5日 博士後期課程3月入試(～7日)
- 3月8日 全学送別会
- 3月9日 学部入試(前期)合格発表
- 3月12日 学部入試(後期)
- 3月15日 博士後期課程3月入試合格発表
- 3月20日 学部入試(後期)合格発表
- 3月21日 永年勤続表彰式
- 3月22日 卒業式

# 研究表彰等受賞者一覧 / イベントカレンダー



平成23年度卒業式

お茶の水女子大学学报 第232号

▽発行日：2012年4月4日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL : http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、  
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。